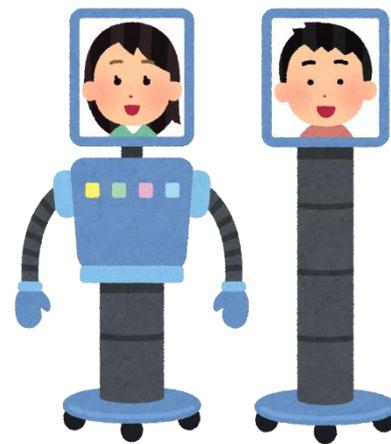


## 特集：仕事の未来

### 【仕事の未来】

現在、仕事の将来について真逆の報道があります。ひとつは、AIの進展により、単純な接客はロボットに置き換わるという報道と、もう一つは、障がい者が、ロボットを介しアバターに扮して接客をするという報道です。将来は果たしてどうなのでしょう。仕事の未来について、いろいろな立場で語った書籍を紹介します。



### 【書籍の紹介】

#### ★AI世界秩序 —米中が支配する「雇用なき未来」— 李 開復 上野 元美【訳】

日経BP 日本経済新聞出版本部 (2020.4) 366/250

台湾で生まれ、アメリカで教養を深め、中国本土などでベンチャー企業の投資家として活躍する著者が、世界的企業や政治指導者層に行ってきた人工知能(AI)についての講義をまとめ、今後の雇用について語ります。AIが人々の意識の最前線に躍り出る前に、研究を行っていた企業などの聞き取りなどから、AIを開発し画期的な思考を握る一部の企業が富と雇用を奪っていくと警告します。中国のスプートニクの瞬間、模倣者たちの大競争、中国対アメリカなど。

#### ★普通の人々の戦い —AIが奪う労働・人道資本主義・ユニバーサルベーシックインカムの未来へ—

アンドリュー・ヤン 早川 健治【訳】 那須里山舎 (2020.3) 366.02/255

人口を、教育、所得、貯蓄、都市からの距離などという尺度にして、真ん中に位置するような人々を「普通」と呼び、そのような人たちが、これから先AIの世の中においてどのように過ごし、暮らしていけばよいのかを説きます。工場労働者やトラックの運転手、ホワイトカラー雇用など、著者自身の遍歴を通して考え、さらに、このような世の中での方策としての「ユニバーサルベーシックインカム」の考え方も説きます。

#### ★21世紀の新しい職業図鑑 —未来の職業ガイド—

武井 一巳 秀和システム (2021.2) 366.29/495

10年後のあなたは、こんな仕事に就いている？ 巷に吹き荒れているAIの評価に負けない45の職業を示しています。その職業を、エンタメ系、コミュニケーション系、ビジネス系、ITスキル系の4つに分類して、現時点での平均的な収入や今後に向けた様々な展望などを紹介します。世界経済に影響をもたらす現象として、5G、IoT、AIなどを駆使することのできる職種です。



**★会社員が消える ー働き方の未来図ー** 大内 伸哉 (文春新書 1207)

文藝春秋 (2019.2) 366/244

「金融」と「技術」を融合させた「フィンテック」、仮想通貨(暗号資産)による決済、銀行口座を持たない人の増加と給与の電子マネーでの付与の協議など、デジタル化の激しいビジネスの社会が変わり、「働き方改革関連法」の成立以降、人に仕事をつける日本型雇用形態から、仕事に人をつける欧米型雇用に変わりつつあります。今後の雇用の在り方を、労働法の専門家が説きます。

**★10代のための仕事図鑑 ー未来の入り口に立つ君へー** 大泉書店編集部【編】

大泉書店 (2017.4) 366.29/469

10代になった君たちは、早い人はあと数年で、そうでない人たちもあと十年くらいで、働き始めることになるでしょう。社会のために生きたい、沢山のお金を稼ぎたいなど、何のために仕事を不得働くのかは、人それぞれで違います。ただ、その目的を見失わなければ、おのずと満足できる道が開けるはずで。この本では361の仕事の種類を紹介し、そこにたどり着くための方法を紹介します。

**★女性に伝えたい未来が変わる働き方 ー新しい生き方のヒントが見つかる、二極化時代の新提言ー**

野村 浩子 KADOKAWA (2017.2) 366.21/749

2010年代の半ば、女性が活躍推進の旗を振り始め、近年は「女性活躍推進」の文字を新聞で目にしない日はありません。男女雇用機会均等法の施行から30年となり、女性が働きやすい環境も整備されつつあります。しかし、職場の周りでは、マタハラやノンママハラスメント、非正規労働など、女性の労働環境は二極化が進んでいます。このような女性の働く環境を長年取材してきた著者が、将来に向けてどのような志を持って仕事に臨むかを語ります。

**★すべての若者が生きられる未来を ー家族・教育・仕事からの排除ー**

宮本 みち子 岩波書店 (2015.9) 368/63

近年、学校教育における不登校や中退、複雑な家族関係、心身の不調やハンディキャップ、希薄な友人関係、仕事を通して社会関係の不安を持った若者が、不安定な社会関係がゆえに貧困に陥ることが多いのです。これらの若者に対しての社会保障のすすめ方について、学校教育の改革、就労困難を抱える人々への支援などの柱を中心に論考しています。

**★超高齢社会の未来 I T 立国日本の挑戦** 小尾 敏夫・岩崎 尚子

毎日新聞社 (2014.12) 360/167

社会の変化は、団塊の世代が後期高齢者になる2025年にひとつの節目が来ます。その時、対応を一步間違えると、年金の破綻、医療費の高騰、さらには多重格差や国家危機をも招きかねません。そのために、世界一の超高齢社会と情報社会が融合し、日本の将来像をしっかりと持ち、歴史的系譜や、現状の課題などを加味しながら、総合的視点で21世紀最大の難題にどう解決していくのかを説きます。

**★未来職安** 柞刈 湯葉 双葉社 (2018.7) 080/582

近未来の朝、起きて洗顔からメイクまで、機械の前に座りオートで支度をする。朝食を済ませ、街に出て通り過ぎる車に対して、乗車待ちのポーズをして道端で立つ。サインを認識した車両が止まり、そして職安の場所をいうとパネルに目的地と料金が表示され、カードで決済する。そして職安へ…オンライン職業訓練校など、コロナ禍以前に構想した社会での人とのやり取りを描いた表題作と6作品を収録します。未来になっても、職安という仕事と人をつなぐ機関の存在はなくなると語ります。双葉社 Web 文芸マガジン「カラフル」掲載から。